第772号

1990年
（平成2年）
1・1

我孫子市役所企画財政部広報広聴課

〒270-11 我孫子市我孫子1858
☎0471（85）1111

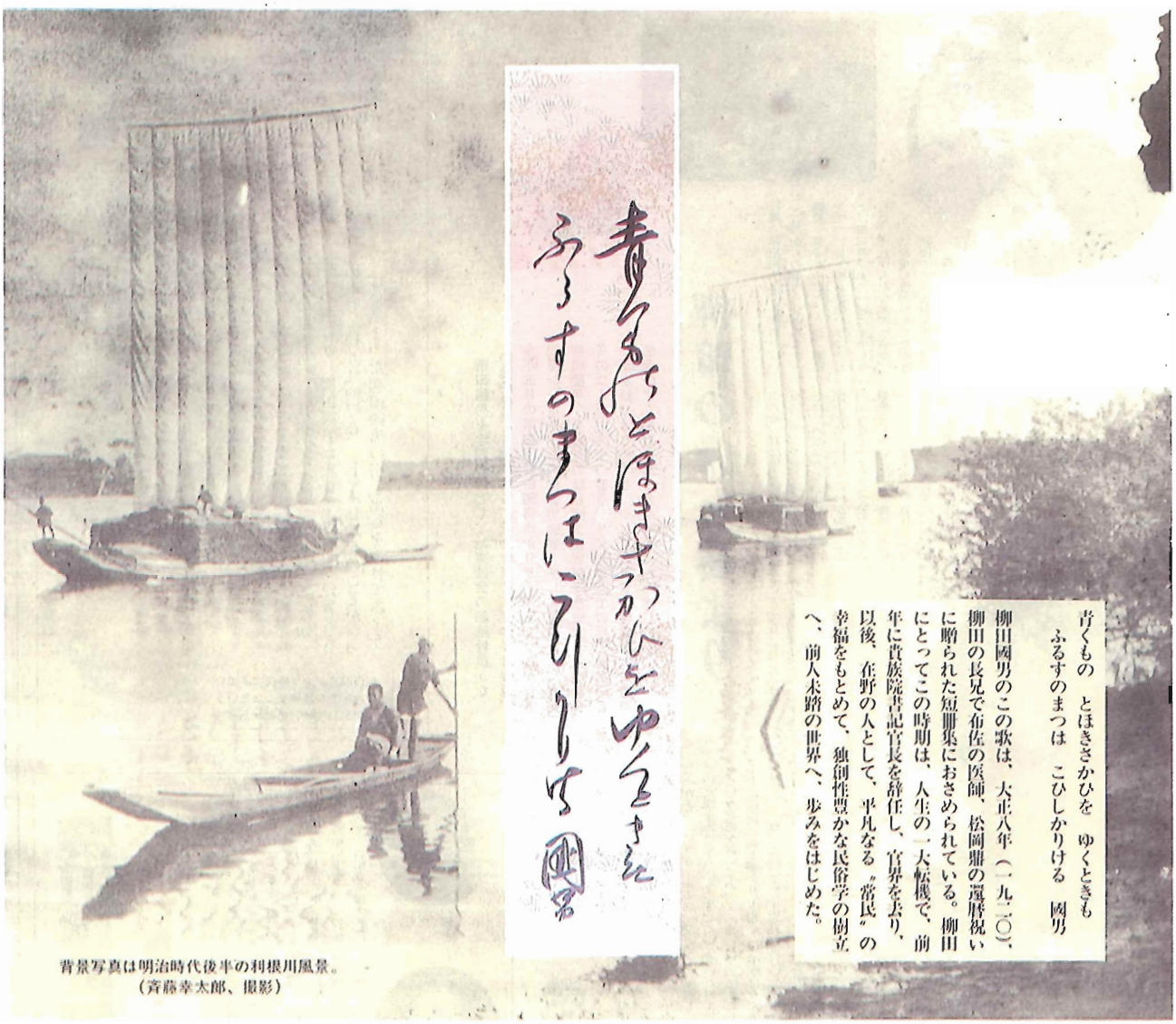
広報 あびこ

市民憲章

わたくしたちは、利根川と手賀沼にかこまれ自然と歴史にはぐくまれた我孫子の市民です。

わたくしたちは、田園教育文化都市をめざす市民としての誇りをもち、明日への願いをこめて、ここに市民憲章を定めます。

水と緑と土のにおいがいっぱいの　住みよいあびこにします
心と体をきたえ　生き生きと働き　伸びゆくあびこにします
老人を大切にし　子どもの夢を育て　幸せなあびこにします
ふるさとを愛し　文化を高め　豊かなあびこにします
みんなで話しあい　きまりを守り　明るいあびこにします



青くもの　とほきさかひを　ゆくときも
ふるすのまつは　こひしかりける　國男

柳田國男のこの歌は、大正八年（一九一〇）、柳田の長兄で布佐の医師、松岡鼎の還暦祝いに贈られた短冊集におさめられている。柳田にとってこの時期は、人生の一大転機で、前年に貴族院書記官長を辞任し、官界を去り、以後、在野の人として、平凡なる〝常民〟の幸福をもとめて、独創性豊かな民俗学の樹立へ、前人未踏の世界へ、歩みをはじめた。

背景写真は明治時代後半の利根川風景。
（斉藤幸太郎、撮影）

謹賀新年

市長　大井　一雄

市民の皆様、明けましておめでとうございます。

希望に満ちた新年を迎えられましたことを、心からお喜び申し上げます。

私達のまち我孫子市は、昭和四十五年県下二十二番目の市として市制施行以来、今年でちょうど二十周年を迎えました。

市制施行当時五万人弱であった人口は、現在十二万人を超えました。この間、人口の急激な増加に伴い生活基盤の整備、教育施設の整備に追われ、今、一定の落ち着きをみました。

我孫子市は二十一世紀へ向けた将来像を「手賀沼のほとり、やすらぎのまち」と定め、良好な住環境の整備をはじめ、市内JR各駅周辺の区画整理事業の推進、我孫子駅貨物線跡地の有効利用、水害の解消、文化施設の充実、手賀沼の浄化等、市民福祉の向上と文化都市建設のため、着実にその歩みを進めてまいります。

市民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げますとともに、幸多い年でありますことをお祈りいたしまして、年頭のご挨拶といたします。

議長　佐々木豊治

市民のみなさま、明けましておめでとうございます。

希望にあふれる新春を迎え、市民のみなさまのご健康とご多幸を、心からお祈り申し上げます。

わたくしは、昨年の十二月定例市議会におきまして、はからずも議長に推挙され、その要職に就くことになりましたことは、わたくしの身に余る光栄であり、いまさらながらその重責を痛感しております。

我孫子市は、昨年人口が十二万人を超えました。市制施行二十周年を迎えた今年は、いろいろな記念事業が計画されています。

市議会におきましては今日まで、市民の多種多様な要望に答えるべく努力を続けてまいりました。

今後とも、市民のみなさまの信託にお応えすべく、議員一同最善の努力をいたす所存でございます。

どうか、市政に対するみなさまのより一層のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げまして、年頭のご挨拶といたします。

下総基地の米軍機使用絶対反対

とっておいの言葉

國男の代表作の初版本。左から「海上の道」「遠野物語」「後狩詞記」

柳田國男特集

二十一世紀まであと十年。世紀末ともいえる現代は、日常生活を地球規模で考える社会。グローバルな情況にたえうる日本人とは。これを我孫子市ゆかりの人のなかで考える。

秋谷七郎、阿曾古登、井上二郎、榎本次郎右衛門、岡田武松、嘉納治五郎、坂西志保、志賀直哉、菅井敬之助、杉村楚人冠、瀧井孝作、千濱宗一郎、血脇守之助、中勘助、中野治房、武者小路實篤、柳宗悦……そして柳田國男。この人は民俗学の創始者で、日本の代表的でオリジナルな知識人。やはり、柳田國男は我孫子市ゆかりの著名人の中でも切り札的存在。それでは地元のことがいっぱい詰まった柳田國男の引き出しをあけてみよう。

柳田國男が少年時代にみていて神秘的な体験をしたという小川家(利根町)の祠にある珠

書斎での出会い

柳田の爺と婆より

柳田國男を学問の師とし、地球社会の創造性豊かな"内発的発展"を追求する、社会学者の鶴見和子教授は、今年五月の第四回柳田國男ゆかりサミットでひらかれる国際シンポジウムの総合司会者。そして同じ日に"叔父柳田國男"を語るのは松岡文雄我孫子市史編さん委員長。その二人が、先生の書斎、叔父の書斎での柳田國男の思い出を語りはじめると、やがて鶴見さんの家が柳田國男の家のすぐ前だったことがわかった。そして……

成城学園にて。左の人が妻の孝さん（昭和35年）

松岡　鶴見先生は柳田國男とはいつごろからのお付き合いですか。

鶴見　戦争前のことですが、柳田先生の一番下のお嬢様の千津さんとは津田英学塾で一緒に勉強しました。それから私は米国へ留学。先生に直接お目にかかったのは戦後です。父が成城に家を買ったのですが、それが柳田先生の研究所の前でした。それから時々、伺うようになりました。松岡先生は柳田先生のおうちには…。

松岡　中学生の時、私は東京におりまして、忙しくても、もてなしてくれて、布佐へ休みで帰る前に、必ず柳田〟そのたびに面白い逸った話や地をはじめ叔父たちを訪ねて、その様子を父に報告するのが約束ごとのようなものでした。叔父たちの報告をしないと、父の機嫌が悪いのです。一番上の兄の責任感かな。そのころ、柳田は貴族院の官舎にいて、たまに遊びに行くのですが、機嫌のいい時ばかりにぶつかりませんでした。

当時、貴族院の書記官長でしょう。その前は法制局参事官、そういうところが時々、ひょひょっと出るものだから、実に怖かったですね。

鶴見　こわいなんて感じたことはないね。私、機嫌の悪い顔なんか見たことないですよ。そんな気難しいなんて知らないね。どんなに方の話をなさってくださる。

柳田先生は歴史の名人ですね。もう、いくら話を聞いてもあきない。身ぶり手ぶりをいれて表情豊かなんです。そして白足袋をはくおしゃれだった。

私、一年ほど、病気で寝ていたことがあるんですが、ある日、寝ていて眼をあけたら、ものすごくきれいな花瓶が置いてあって、カードに「柳田の爺と婆より」と書いてあった。私、このこと一生忘れられないわ。

鶴見和子…社会学者。上智大学名誉教授。大正七年生。主著に『漂泊と定住』『南方熊楠「内発的発展論」』。祖父に後藤新平、父に鶴見祐輔、弟に俊輔。

学問の眼がパッと開いた

鶴見　柳田先生のお宅に伺うようになったころは、私はまだ社会学に入っていないで、哲学をアメリカで勉強して、戦争中に帰って来ていた時でした。そのころ哲学をやってましたから、柳田先生の民俗学はなんという細々しい、頑わしいことをやっているんだろうと思ったんですね。若い時は抽象的な学問のほうに頭が向いていたんですね。だから、宝の山に入って宝物を逃していた時代がずっとあったんですよ。

それからだんだん、終戦後いろんな社会教育をやるようになって、そうして興味が出てきたんです。

それからアメリカ社会学の大理論家のマリオン・リーピーさんが日本に来た時に、私は研究助手になりました。徳川時代の社会構造という研究テーマで、すごい具体的なことを調べるわけです。大名の奥さんは朝から晩まで何をしていた。その時は百姓のおかみさんは何をしていたとか。歴史の本には日常生活のことが皆目書いてないのよ。それから仕方がないから柳田先生の本を読みはじめたら書いてあるのよ。それにリーピーさんは柳田先生の本を日本に来る前に読んでいるんですよ。柳田先生はリーピーさんが会いたい日本の学者の一人でした。

それで応接間で会ってくださいました。

その時、あなたは外国から来て日本のことを調べるのだったら、よほど気を付けなければいけないことがあります。日本では四角い言葉をつかう人と丸い言葉をつかう人があります。あなた方は得して四角い言葉をつかう人とばかり付き合います。そうしたら日本の本当のことはわかりませんから丸い言葉をつかう人と付き合いなさい。そうおっしゃった。実に絶妙な言い方をされた。

これで、私、眼がぱっと開いた。四角い言葉ばかりをつかっているんですよ、私。

鶴見　もう、あれ、忘れられないですよ。

鶴見和子さんがよく伺った柳田宅。現在は長野県飯田市に移築され、「柳田國男館」に

柳田は世界の知識人か

孫文・魯迅・ウェーバーと柳田

この一年、世界の東西情勢は大揺れ。北京では天安門事件が起こり、その民主化要求運動で三民主義の孫文と五・四運動の名が再び叫ばれていました。

柳田國男は、大正六年、中国・朝鮮旅行中に上海で、この孫文にあって、古風な豪傑タイプの人物、と印象を記しています。

また、現代中国といえば毛沢東でしょうが、毛沢東とたがいに共感を寄せあった中国の代表的作家魯迅の日記には、柳田が主宰していた郷土会へ送金とあり、魯迅の弟は熱心な柳田國男の読者でした。この魯迅と柳田の仕事の共通点に

孫文

魯迅

マックス・ウェーバー

は、例えば魯迅の代表作「阿Q正伝」のような難解さと峻烈さがあげられ、その理由は民族の生活伝統をみすえて、いまだ謎深いアジアの底辺に独自の思想の根をおいているからといわれます。

そして、ヨーロッパの方は激動する東欧情勢の中で、ベルリンの壁がこわされ、東西ドイツの統合が話題となりました。

ドイツの生んだ世界の知識人に柳田より十一歳年上の社会学者、マックス・ウェーバーがいます。ウェーバーは、豊富な学識を駆使して、社会科学の方法論を基礎づけ、ヨーロッパ合理主義の書誌的意義の解明や東西文化の宗教社会学的研究に、貴重な業績を残しました。

かつて、日本の知識人でこのウェーバーと比較されたのが柳田國男でした。柳田國男は、ウェーバーと並んで、また孫文や魯迅と比較して果たして世界の知識人であり得るか。社会の国際化がすすむ現代、すぐれて生活の次元から、国際社会へ積極的に問いかけてみる価値あるテーマでしょう。

四角い言葉

叔父と似ているといわれ

鶴見　四角い言葉と丸い言葉の件でも柳田先生の言い回しにはすごい痛烈な批判が入っているのよ。だけど、それには愛情がこもっているんですよ。「お前は用心しなきゃいけないぞ」ということをいってらっしゃるわけなんです。それは松岡家のものですか。

松岡　言い方はありましたね。私なんか聞いていると、皮肉をいわれたとか、遠回しのお説教だとかいう風に受け取らなかったというか、日常の会話にそれがありましたから、そんなに難しい風には考えなかった。けれども、やっぱり気を付けなきゃいけないのかなと、こっちが思うことがありました。人への気遣いについてもね。

鶴見　松岡先生の声は柳田先生の声と似ているかしら。

松岡　この前、遠野に行ったら博物館に柳田がおしゃべりしている録音テープがあるんですよ。そのテープを頒ち聞いて言葉が柳田の声とそっくりだっていうんです。

鶴見　抑揚が似ていらっしゃる。

松岡　柳田の長男の為正にいわせると、骨相学から見て、柳田國男の頭は私の頭と骨の格好が実によく似ているって。

鶴見　でもお顔の形は井上通泰のほうに似ている。

松岡　お墓の改葬の時に父と祖父の頭蓋骨をみる機会があって、みるとこれも私の頭とよく似ているんです。為正は動物学者だから、彼に柳田と私の頭が似ているといわれた時、笑ったんです。為正に「ほー、君、そんなこともわかるのか。君はインギンチャクしかわからないと思ったけど…」って(笑)

鶴見　そういう言い方も柳田式なのよ。ちょっと皮肉で、しかし人を傷つけないような言い方。ユーモアがあるのよね。柳田先生のもの言い方というのは本当に面白い。いつまで聞いていても飽きないものね。

それで松岡先生、今年で九十歳になられますね。卒寿のお祝いですね。

松岡　ええ、私は元旦生まれでね。柳田は、八十八歳まで元気で、米寿の祝いをしてもらいました。私はどういうわけか数えと満の両方で米寿を祝ってもらって、この分でいくと卒寿も数えと満の両方で祝われることになって、四年連続で長寿を祝われる。一番それをよろこぶのは、それを楽しみにする小さな孫たちですよ。(笑)

鶴見　その言い方も柳田式ですね。

成城大学で開かれた米寿祝賀会。柳田夫妻と子息為正・富美子夫妻(右)

ぼろぼろの柳田の本

鶴見　何かを調べなくちゃいけない時、私ます「定本柳田國男集」をみます。その時に必ず「柳田國男集」の索引をみるわけです。それでしょっちゅう使っているから私の「柳田國男集」なんてぼろぼろです。

松岡　私なんかはね、柳田の学問とはまったくかけ離れていますが、やっぱり若い人たちを、もう少し進歩させていかなきゃならない。そんなふうに思いますね。鶴見先生のお話の索引の問題、これなんか十分活用していただいて、柳田の学問をもう少し知ってもらって、読んでもらったら、もう少しみんなが丸い言葉でものがいえるようになると思いますよ。

鶴見　これからの問題として、柳田國男が使った論理や方法論が、今の新しい内発的発展の理論構築のために役立つかということが、私の大きな関心ごとなのです。内発的発展論における内発的な学問の問題ですね。

もう一つは創造性の問題ですね。人間が創造的でなければ内発的発展はできないわけなんです。普通の人の創造性もエリートのそれも両方必要なんだけれど、やっぱり普通の人が創造的でなければ、内発的発展というのはできないわけですね。日本という風土の中に住んでいる日本人が創造的であり得るか。私は柳田國男の仕事を創造的な仕事と思っているんです。その創造的な仕事をした人間がどうして創造的な人間になることができたかということは、創造性の問題としてすごく大事なんです。そうすると、個人史、個人の精神史における創造性ということを調べなきゃならない。そうするとどうしても松岡先生のおっしゃっているような柳田の家族人としてのバックグラウンド、それから柳田がどういう暮らしをしたとか、どういう生活態度であったのか、ということを仕事や学問と合わせて考えなきゃいけない。これは学問の領域からいえば知識社会学、あるいは精神史という問題なんですね。だから学問そのものを使うというのと、その学問を創った人の個人史を調べるということは、学問の系統として二つあるんですよ。私の場合には、両方調べるという二頭立てでやってきました。これからもそうしていくと思います。

最後は、少し四角い言葉で、丸い言葉にはならなかったわね。

今年の五月の柳田國男ゆかりサミットは楽しい仕事にしたいですね。よろしくお願いします。

松岡　こちらこそよろしく。

柳田國男ゆかりサミット

柳田國男にゆかりのある自治体が集り、柳田学の精神を学び、交流を深める「柳田國男ゆかりサミット」。今年は我孫子市と伊賀町が会場に

柳田國男(一八七五～一九六二)…民俗学者。明治八年兵庫県神崎郡福崎町に松岡操の六男として生まれる。兄に鼎と通泰、弟に静雄と輩夫。郷里の高等小学校を卒業後、同二十年に上京、長兄鼎が茨城県・利根町布川に開業した医院に同居。同二十六年長兄一家は布佐に移住。同二十九年相次いで両親を失う。翌三十年第一高等学校を卒業、同三十三年東京帝大法科大学政治科卒業。翌三十四年信州飯田藩出身の柳田直平の養嗣子に。農商務省農政局、法制局参事官、宮内書記官、内閣書記官、貴族院書記官長などを歴任。大正九年朝日新聞に入社、翌十年国際連盟委任統治委員会委員として渡欧。昭和二十一年枢密院顧問官。翌二十二年日本芸術院会員、二十三年日本学士院会員。幼少より読書に親しみ、和歌を学び、新体詩人として知られ、田山花袋、島崎藤村などと交わり、竜土会、イブセン会のメンバー。専門の農政学では産業組合の育成に尽力。この頃、「布佐文庫」の設立や布佐小での学術講演会に協力。明治後半から民俗学の研究に力を注ぎ、また、新渡戸稲造と「郷土会」をひらく。大正期には「郷土研究」「民間伝承」などを刊行。第二次大戦後に民俗学研究所を設立。日本民俗学の創始者として業績は高く、昭和二十六年文化勲章をうける。主な著作に「後狩詞記」「石神問答」「遠野物語」「海南小記」「雪国の春」「山の人生」「桃太郎の誕生」「先祖の話」「木綿以前の事」「海上の道」などがあり、「定本柳田國男集」に収録。昭和三十七年八十七歳で没。

柳田國男

松岡文雄(一八七四～一九三六)…医師。明治三十四年生。柳田國男の長兄松岡鼎の子息。松岡家現当主。北大医学部卒。布佐在住。我孫子市史編さん委員長。

各界で活躍の兄弟たち

"ふるすのまつ"は両親の永眠の地布佐のこと

柳田渡欧の折の兄弟による送宴。左より松岡輝夫、松岡静雄、柳田、松岡鼎、井上通泰　(大正11年4月24日)

柳田国男の本姓は松岡で、その松岡兄弟はそろって英才の誉れ高いことはつとに有名です。昭和初めのある雑誌に紹介された「家門紹現代著名兄弟番付」では堂々と関脇の位置を占めています。

医者、学者、画家など、それぞれ兄弟なほどに異った分野で活躍した兄弟のプロフィールを紹介します。

松岡鼎(一八六一～一九三一)…松岡操の長男。万延元年兵庫県生まれ。はじめ兵庫県の師範学校に入り、郷里の小学校長となったが、後に東京帝大で学び医師となり、茨城県布川で開業し、その後、千葉県布佐に定住。布佐町長、千葉県医師会長、「布佐文庫」の初代理事長。布佐と布川を結ぶ田栄橋は町長時代に架橋組合が結成された。昭和九年七十三歳で没。

井上通泰(一八六六～一九四一)…松岡操の三男。慶応二年生まれ。兵庫県の医師井上家の養子となり、東京帝大に学び眼科医となる。歴史学に造詣が深く歌人としても著名。宮中顧問官、貴族院議員、芸術院会員、御歌所寄人。著作に万葉集新考、播磨風土記新考など多数。鼎男が上京し、布川の長兄の鼎宅に身を寄せる際は引取る。鼎男が東京で独学中は井上宅で生活。鼎男と森鴎外の交流も通泰の紹介による。昭和十六年七十四歳で没。

松岡静雄(一八七一～一九五六)…松岡操の七男。明治十一年生まれ。海軍兵学校卒。日露戦、第一次大戦に従軍。軍令部参謀、戦史編纂委員長、外国駐在武官など歴任し、海軍大佐で退官。その後、言語学者となる。著書に日本古語辞典、蘭和辞典、太平洋民族誌などがある。少年時代、鼎男が、手賀沼へ蜻を釣りに連れていく」と静雄に語った有名なエピソードがある。昭和十一年五十八歳で没。

松岡輝夫(一八八一～一九五六)…松岡操の八男。明治十四年生まれ。東京美術学校(東京芸大の前身)卒業後、母校の教授となる。大和絵の研鑽と発展に生涯をかける。画号は映丘。新興大和絵会、国画院を結成、画壇に大きな影響を与えた。帝国芸術院会員。少年時代のスケッチのなかに、布佐よりみた「布川遠望」がある。昭和十三年五十六歳で没。

ほかに三人の兄弟、俊次、芳江、友治がいたが夭折している。

映丘(松岡輝夫)の代表作「右大臣実朝」

昨年は、柳田國男が遠野を訪れて八十年目にあたり、遠野では記念事業を実施しました。

柳田ゆかりサミットを契機に当市でも設置した常民大学の第七回常民大学合同研究会を八月に開催したのもその一環でした。

遠野単独の記念事業としては、柳田國男に対する尊敬と感謝の気持ちから、市民と行政が一体となって柳田國男像を建立。胸像の制作は、彫刻界の重鎮佐藤忠良氏によるもので「とおの昔話村」の広場に設置しました。この「とおの昔話村」は、柳田國男が遠野を訪れた都度宿泊した旅館を移築し、現存する酒蔵三棟を融和させた博物館の分館的性格の施設です。遠野が目指す「柳田学の里づくり」の一つの拠点でもあるこの施設の中にあって柳田國男像は、輝かしいシンボルとなりました。

遠野市は、永遠の田園都市を標榜し、産業の振興、福祉の増進等各般にわたり施策を展開していますが、観光開発、教育文化の振興をも重視しており、ふるさと創生事業の一部では、遠野駅から博物館までの通りを「民話の道」として整備すべくその構想を練っているところです。また今年は、「遠野物語」が発刊されて八十年という記念すべき年でもあるので、そのイベントについても検討しています。

第四回柳田國男ゆかりサミットは、今年五月両親の墳墓の地千葉県我孫子市と第二の故郷茨城県利根町の共催の もとで開かれることになっています。当サミットを機に、更に、仲間の絆を深め、強め合うことを通じて、今後教育文化、産業経済の面で活発な交流がされることを確信しています。

北上山地の中央に開けた盆地の遠野郷は、冬の最中、凍てつく毎日ではありますが、光だけは確実に明るさを増してきています。遠野郷の近況をお知らせすると共に柳田國男によって結ばれた関係団体が、その住民が益々連携を密にし、興隆することを念願しております。

「遠野物語」誕生の地

岩手県遠野市

〝柳田学の里づくり〟の拠点

「とおの昔話村」に柳田國男像が建つ……

遠野から望む早池峰山

遠野まつりでの南部ばやし

「とおの昔話村」と柳田國男像

人口26,807人　面積1,139k㎡

飯田市は長野県の南部、いわゆる伊那谷盆地の南に位置し、東に南アルプス国立公園、西に中央アルプス県立公園、南には天竜奥三河国定公園をひかえ、諏訪湖を源とした天竜川によってできた河川段丘の上に発展した南信濃の、文化・経済・行政の中心都市で、「緑とロマンにあふれ、活力あるりんご並木のまち、いいだ」です。

りんご並木のりんごを収穫する中学生

「飯田美しき町、山近く水にのぞみ」と早田園士に詩われるように、四季おりおりの自然美と、明るく澄んだ青い空と水、そして静かで落ち着いた里でもあります。

大火後は、「りんご並木」に象徴されるように、整然とした緑の街路は、防火モデル都市、衛生都市として、全国に誇りうるまでに生まれ変わり、学校・文化施設等も充実し、近代的文化都市へ前進を続けています。

日本民俗学の創始者柳田國男は、幕末に柳田国家の一族として生まれ、二〇〇四年にわたった田舞田代、二〇〇四年に生まれ変わり、学校・文化施設等も充実し、近代的文化都市へ前進を続けています。

日本民俗学の創始者柳田國男は、明治三十四年柳田家の養子に迎え、「柳田國男記念伊那谷民俗学研究会」を主軸とする「郷土史研究の生きた資料庫および、学習、研究の場として活用していただきたい」と寄贈されました。

この由緒ある書屋を、飯田市美術博物館の敷地に「柳田國男館」として移築、一階は、柳田國男の人と業績を偲ぶ著書、原稿、書簡などを常設展示、二階は、資料室、会議室を設け、伊那谷民俗の史資料の収集と調査研究を主軸とする「柳田國男記念伊那谷民俗学研究会」の事務局を置いています。

第二の故郷

茨城県利根町

多感な少年時代を過した小川家跡を柳田國男記念公園に……

人口20,820人　面積25.02k㎡

利根町は茨城県の南端利根川べりにある町で、川をはさんで南は千葉県我孫子市と印西町に接しています。都心より40㎞圏にあり、近年宅地化が進んでいます。

この辺りは、いまからおよそ一万年くらい前から人が住み出しました。花輪台貝塚は縄文早期の遺跡として知られています。

姫宮神社は、相馬郡一座の式内社で、同社の門の宮の所在地は、立木貝塚の名で知られています。縄文晩期の遺跡で土偶が多数出土されています。

戦国期には、布川台に豊嶋頼継が城を築いて、当地方を支配しました。

江戸期には、江戸の消費物資の輸送路として利根川の水運がにぎわいをみせ、布川河岸が繁栄しました。文化人の往来もあり、布川でも文人・画家を多く出しました。

布川河岸の繁栄も明治にはいると終末期になります。このころ、十三歳の柳田（当時の姓は松岡）國男少年が布川に移住してきました。長兄鼎が布川で医院をひらいたのを機に、弟の國男を長庚堂の播磨から呼びよせたもので、明治二十年のことでした。

それから三年々々の間、國男少年は、布川に住み、辻川の三木家につぐ第二の乱読時代をおくりました。その舞台となったのが小川家の土蔵です。

國男少年は、この土蔵の中にあった赤松宗旦の『利根川図志』など多数の本を読みました。

また、小川家の氏神の中にまつられている珠や、利根川を通る高瀬舟の白帆を見たり、徳満寺の「水手絵馬」を見てツワイ・キンダーシステムを考えたり、辻川ではできなかった体験をし、文化や風土の違いなどが、感性豊かな少年の心に深くきざみこまれました。

利根町では、昭和五十四年発行の町史第一巻に柳田先生のことを掲載したのを初め、小川家氏神様の整備、赤松宗旦旧居の復元などを行ってきました。またサミット参加を機に、観光パンフレットの作成を行いました。現在、「少年柳田國男」と題する冊子を作る計画で編集をはじめています。また、柳田國男が少年期をすごした、小川家跡を整備し（仮称）柳田國男・記念公園を建設することになっています。このように本年五月の我孫子市・利根町を会場とする、ゆかりサミットへ向けて着々と準備を進めています。

小川家の氏神にまつられている珠

布川時代、國男少年の心に一番強い印象を与えた「子がえしの絵馬」

柳田民俗学は旅から生まれたといってもいいくらい。日本全国津々浦々、柳田國男が旅したところは数知れず。そんな中から柳田に、ゆかりの深い町や村が集まった。いずれおとらず柳田の民俗学を礎に、個性豊かな町や村をつくろうと、切磋琢磨を繰り返す。それが我孫子市も参加する柳田國男ゆかりサミットの町や村。その現地からの便りをとくとご覧あれ。

人口777,300人　面積58.81k㎡

永住の地

東京都世田谷区

都市と自然、アーバンデザインで「人間のための環境づくり」を……

ある作家は最近のテレビ番組で「自然と都市との調和などとは次元の違うもので、人類がこれから生き延びるには、縄文時代のような狩猟・採集の生活に戻らなければ」とまで述べ、自然消失の危機を訴えています。

また、多くの人が自然のない町は嫌いだといって、自然の豊富な地方に移り住んでいます。しかし、ほとんどの都会人は日々の生活のため、その都会（町）に住まなければなりません。そのため、アーバン（都市の）デザインで、自然環境を町並みの中にどう調和させて保存していくかが、今大変重要となっています。

大都市東京の西の玄関口に位置する世田谷区は、かつては豊富な武蔵野の自然に囲まれた農村地区でした。が今は、多種多彩な業態人や芸術家、学者、政治家などが、数えきれないほど住む、近代的な住宅都市です。しかし、地価の異常な高騰により土地は切り売り等の、広大な風致林や貴重な伝統的建築物などが、急速に失われている状態です。

柳田先生は、昭和の初めより三十年余りも世田谷に住み、多忙な著作活動の間、武蔵野の自然をこよなく愛されていました。しかし、そののどかで豊かな世田谷の自然や文化遺産は、近年の急速な発展のつけとして、前述の状態となっているのです。

幸い、我が区民は、こうした状態をいち早く憂念し始めていました。その現れとして、一昨年の区民意識調査の「一」位は、住宅環境の整備」と「緑の保存」でした。こうした内容の回答は、他では見られないものです。

このような背景の下、区政の最重要課題に自然保護と文化の創造を掲げ、平成元年十月二日に「せたがやトラスト協会」を設立し、また近年には文化・生活情報センターなどの建設を予定しています。トラスト運動では、柳田國男隠居所の復元を予定している「みつ池特別保護区」などの園分寺崖線の自然保護地区の保存などを優先の事業として、活動を開始しています。また、自然と共にアーバンデザインで大切な文化施策には、現代的な町中に「世田谷美術館」や「次大夫堀公園民家園」などを建設し、併せてそれらの地域では芸術的パフォーマンスや区民オーケストラ、芝能等多様なイベントを展開しています。

このように今世田谷区は、伝統と新しさのバランスを狙いながら、自然と文化を取り込んだ「人間のための環境づくり」に燃えています。柳田学を継承し、実践している柳田國男ゆかりサミットでは、こうした課題について、諸様方のご教示を受けたいと願っています。

次大夫堀公園民家園

島崎藤村「椰子の実」の記念碑

人口32,742人　面積81.18k㎡

愛知県渥美半島の先端に位置する渥美町は、標高二〇〇㍍前後の赤石山系の東端が東西に連なり、南は太平洋、西は伊良湖水道を経て伊勢・志摩、北は三河湾に面し、暖流の影響を受け、冬も温暖で常緑樹が繁茂しています。

また、多くの人が自然のない町は嫌いだといって、自然の豊富な地方に移り住んでいます。しかし、ほとんどの都会人は日々の生活のため、その都会（町）に住まなければなりません。そのため、アーバン（都市の）デザインで、自然環境を町並みの中にどう調和させて保存していくかが、今大変重要となっています。

大都市東京の西の玄関口に位置する世田谷区は、かつては豊富な武蔵野の自然に囲まれた農村地区でしたが今は、多種多彩な業態人や芸術家、学者、政治家などが、数えきれないほど住む、近代的な住宅都市です。しかし、地価の異常な高騰により土地は切り売り等の、広大な風致林や貴重な伝統的建築物などが、急速に失われている状態です。

柳田先生は、昭和の初めより三十年余りも世田谷に住み、多忙な著作活動の間、武蔵野の自然をこよなく愛されていました。しかし、そののどかで豊かな世田谷の自然や文化遺産は、近年の急速な発展のつけとして、前述の状態となっているのです。

幸い、我が区民は、こうした状態をいち早く憂念し始めていました。その現れとして、一昨年の区民意識調査の「一」位は、住宅環境の整備」と「緑の保存」でした。こうした内容の回答は、他では見られないものです。

世田谷美術館

「海上の道」初発の地

愛知県渥美町

流れついた一個の椰子の実。愛唱歌「椰子の実」には、藤村と國男の友情が……

柳田が恋路ヶ浜で、椰子の実を拾った喜びは終村に受けつがれ、そして多くの人々に愛唱歌として親しまれてきました。

今またそれは、はるかなロマンをかきたてると同時に、平和で心豊かな社会を希求しようとする一

柳田家先祖の地

長野県飯田市

伊那谷は民俗の宝庫、「喜談書屋」の完成で民俗学にはずみが……

昭和二十二年四月の大火により、市街地の大半を失い、古い家並や多くの文化遺産が灰燼となり、古来より小京都と呼ばれていた城下町の姿は消えたが、大宰春台、菱田春草、河竹繁俊、日夏耿之介等多くの文化人を誕生させました。

福崎町は、兵庫県の中央南部に位置する中核田園都市で、町内には兵庫県の東西を走る中国横貫自動車道と南北に走る播但連絡自動車道が交差する幹線交通の一大拠点、福崎インターチェンジを有しています。また、我が町は、民俗学の父・柳田國男の生誕地としても知られており、先生が幼少のころ過ごされた町です。

街の中心部にある旧生野街道の宿場町として栄えた辻川界隈は、今なお当時の名残りをとどめ、歴史的雰囲気を漂わせ、その一画には、「私の家は、日本一小さい家、この家の小ささという運命から私の民俗学への志も源を発した」と、柳田先生が故郷七十年ぶりの中で語っておられる「生家」。柳田先生をはじめとする、「布佐」在住で開業医の松岡文雄さんの父・鼎先生、日本画家・松岡映丘先生、万葉学者・井上通泰先生、言語学者・松岡静雄先生ら兄弟の作品や資料などどを展示。また、昔ながらの花嫁行列を再現する多彩な催しで、地域の人々による柳田先生ゆかりのまちづくりが行われています。町ではこの辻川界隈を“民俗学のふるさと”と位置づけ、街道を「民俗学の路」と称してカラー舗装するなど、歴史と文化のかおる町づくりにと努力しています。

また「故郷七十年」の復刻版の発行や学校では、ゆとりの時間に柳田先生に関する小中学生向けに作成した副読本をつかって勉強しています。

子供たちはじめ町民が、柳田学と先生のすばらしい文化の心を学び、全国ゆかりの地と交流を深めながら、福崎町が「民俗学発祥の地」として誇れる町づくりに取り組んでいます。

柳田國男の“生家”(手前)と「柳田國男・松岡家顕彰会記念館」

辻川界隈展の花嫁行列

人口19,222人　面積46.23km²

生誕の地

兵庫県福崎町

「生家」と「柳田國男・松岡家顕彰会記念館」には、ゆかりの品々が……

人口92,061人　面積299.23km²

以来先祖のある飯田をしばしば訪れ、養父の実家安兼家はもとより、市村咸人をはじめとする多くの郷土史家と視交を重ねました。伊那谷や信州の郷土史研究の今日あるは、柳田國男との深い絆によるものといえます。

また、伊那谷が日本の民俗の宝庫といわれるまでに柳先を浴びているのは、柳田國男とその四弟である折口信夫を中心とする、大正期以降の脈々とした研究と紹介が刻まれてきたからです。

全国民俗学研究者、また、柳田國男ゆかり区市町村の交流の場として活用を期待するものです。

柳田國男館として移築された「喜談書屋」

故中瀬淳宅記念碑

第四回「柳田國男ゆかりサミット」が柳田の両親墳墓の地そして第二の故郷の地であった、我孫子市・利根町に於て開催されますことを心からお祝い申し上げます。

同じ柳田ゆかりの地、我が椎葉村は柳田の処女作「後狩詞記」の誕生の地と言うよりも民間伝承学発祥の地であり、今日の民俗学出発の村でもあります。柳田の興味を引いた猪狩の話は古く慶長の中頃、「深山幽谷の地である椎葉村は天領であって支配役が居なく、徳川家康の鷹の巣山管理の朱印状をもらった豪族と住民との間に治政をめぐって抗争が続いたが、住民の反乱が事前に発覚し、徳川幕府より豪族側に警備用として鉄砲三百挺が渡されていた。元和の初めになって住民が再び蜂起し、豪族の一族を討取った。幕府は奉行を派遣し人吉相良藩主に命じてこの事件を鎮定して、前記の鉄砲三百挺は住民の焼畑用の威筒(ドスダマ)(獣類おどし)として下げ渡し、平和の到来によって狩用として使用させた。その後追加されて幕末時には五百九拾五挺が保有されていた。」と記されています。

このようなことから本村における狩の歴史は古く、今でも柳田の「後狩詞記」にある猪狩の故実の型式が失われることなく狩猟の中に継承されています。さらに明治四十一年七月、柳田が五泊して話を聞いた当時の村長故中瀬淳宅には、記念碑と説明板を設置し顕彰に努めています。

また、昭和六十年八月には日本民俗学シンポジウムの開催、六十二年十二月には第二回日本民俗音楽研究大会の開催など全国的規模の研究会誘致に努めています。最近は学校教育に於ても柳田研究が盛んとなり、毎年の子供郷土芸能発表大会の開催、「後狩詞記」の研究と子供版の発刊準備などが進められています。

産業面で考えると、柳田の村訪問の目的は公用として、焼畑に自生する茶の産業的価値、椎茸と「こんにゃく」の発展の可能性調査であったと言われていますが、茶は人吉藩時代からの名産であり、古老の話では静岡産の物にはない味があったと言われ、昭和三十年頃迄生産されましたが、今日では寄せる近代化の波と植林によって衰退し、「こんにゃく」も自家消費程度となり、ただ椎茸のみは質量ともに全国の町村で一～二位を争うまでに成長しています。

九州山脈の山懐に抱かれた椎葉村は、日本の四大秘境の一つとして大自然に恵まれ源平の歴史とロマンを秘め、柳田國男全集にある「女性が想う男に織ってわたす木綿の帯の物語」(日向訪問の目的は公用として、焼畑豊かな村として静かに息づいています。

郷土芸能発表大会

柳田情報が子供達にも受け継がれる

「後狩詞記」誕生の地

宮崎県椎葉村

猪狩りの故実を狩猟の中に継承し、「後狩詞記」の子供版の発刊を……

人口4,747人　面積537.29km²

宮古島

春の地として広く知られています。

この恵まれた風土の中で暮らした先人の遺跡も数多く残され、万葉集にも潮騒の伊良湖郡の詠まれるなど、文人墨客の往来も多く、詩情あふれる自然とロマンを秘めた歴史は、かつてこの地が東西文化の接点であったことを物語っています。

柳田國男が渥美町伊良湖に遊んだのは、明治三十一年の夏の約一か月間。柳田が伊良湖を知ったのは当地出身で博文館の挿絵画家を勤めた田山花袋とも交渉のあった富田泰行からの伝聞がきっかけでした。

柳田は花袋を介して富田を知り、彼の故郷の話においに心をひかれました。

柳田が沖縄・宮古へ旅したのは生涯この一回かぎりです。にもかかわらず、この「海南小記」の旅から三十数年間、柳田の沖縄・宮古への思いは消えることなく膨らみ、昭和三十六年には宮古の八重干瀬を舞台にした「海上の道」を著したのです。柳田はその中で「宮古島の北方に発達した珊瑚礁群・八重干瀬とその周辺の島々から無尽蔵に採集される宝貝(子安貝)の魅力にひかれて、中国南部から稲作技術を持った人々が渡来、これらの人々が適地を求めて北上していった」と、いう、ロマンにみちた日本人の起源説を唱えています。

この「海上の道」での柳田の推論は、今日では大方が否定されているものの、それでは、宮古の人々はいつ頃、何処から来たのかという課題については今日もなお大きな示唆を与えています。特に、去年、発掘の行われた宮古島東海岸出身で当時東京帝国大学在学中の比嘉財定から宮古島比嘉村の話を聞いてこの頃から沖縄に関する書物を読むようになったということです。不思議な縁というか、柳田の沖縄に関する最初のインフォーマントは、宮古島の出身者だったのです。沖縄入りした柳田は、二週間ほど沖縄本島を巡り歩き、一月二十二日には先島(宮古、八重山)へ、先島の旅を終えて那覇に戻ったのが二月二日、一週間ほど那覇に滞在し、沖縄を後にしたのは二月九日のことでした。この先島の旅の記録は、大正十四年に「海南小記」と題して刊行されました。

「海南小記」に紹介されたはがり石(人頭税石)

宮古島

「海上の道」誕生の地

沖縄県平良市

ロマンに満ちた日本人の起源説。宮古島はあらたにゆれている……

人口33,833人　面積64.15km²

この実を放流しました。この椰子の実は、昨年三月、JR東京駅で開催した「花と潮騒の伊良湖観光と物産展」で会員を募集したもので、人気と期待を集めた付帯イベントでした。

一〇個放流された椰子の実のうち二個が約一か月後高知県の土佐清水市と春野町の海岸で拾われました。

当町観光協会では、去年十一月一日東京で椰子の実を買った人と高知で拾った人をペアで伊良湖へ招待し、「椰子の実」の歌碑の前で「ヤシ」を植樹するなどのセレモニーを行いました。

大テーマに真剣に取り組もうとしている人たちの具体的行動として歩きはじめました。

「椰子の実」の舞台はこれからも喜びの舞台です。

潮騒の恋路ケ浜

文学、趣味から

ゆかりの人

柳田國男の交際は、きわめて広く、そうそうたるメンバーが多い。ここでは、我孫子という土地での人との交流、あるいは柳田が交際したり、出会いをもった人との我孫子とのかかわりに触れてみたい。それは少年時代、一高・東大時代、文学青年時代、官僚時代、ジャーナリスト時代、民俗学者時代、晩年そして今日と、約一世紀の流れのなかにある。いずれにしても感心させられるのは、この人々との交流や出会いのなかで、柳田はなにものかを得、独自の仕事を成し遂げ、今日に影響をあたえている。それは柳田との出会いをもった人々にもいえるのだろう。

我孫子でのつきあい

筑波山への初旅

江戸時代のはじめに布佐に定着した商家に、明治七年（一八七四）、一人の男子が出生。それが後に気象学のパイオニアとなった岡田武松です。柳田とは一歳年上で、竹馬の友といわれますが、実際は十五、六歳頃から知り合い、友人となったといわれます。

岡田家は、屋号が播磨屋で、先祖は播磨国出身でした。柳田の生家、松岡家も播州出ですから両家はおのずと親しみをもち、武松少年と國男少年の付き合いも深くなるのは、うなずけるところです。

柳田民俗学の形成には旅が欠かせぬ要素でしたが、柳田自身の語る初旅は、明治二十七年、第一高等中学校で一年先輩の岡田との、布佐から筑波山そして水戸、霞ケ浦、銚子などを巡った学生旅行でした。この頃の旧制一高の校長は、後に東京高等師範学校長になる嘉納治五郎。嘉納は明治後半に旧我孫子町の手賀沼べりに別荘を建て、それが白樺派の沼べりの生活へと発展していくことになりますが、岡田と柳田が嘉納と結びつくことは記憶されてよいでしょう。

柳田と岡田、この二人の学問の原点が、民俗学の柳田の場合は播州や利根川べりの農村の貧困にあり、気象学の岡田の場合は颱天や春風による海難事故で、それが共に十代までの体験に求められるのは、印象的で暗示的です。このことはやがて大学進学で、同じ東京帝国大学ながら、岡田は理科系へ、柳田は人文系へと進路が分かれることで明瞭になります。

岡田武松（おかだ たけまつ）（1874～1956）

気象学者。明治七年（一八七四）、旧布佐町に生まれる。明治三十二年東京帝国大学卒業後、直ちに中央気象台に入り、大正九年、海洋気象台の創設に成功。大正十二年、中央気象台長に就任し、日本の気象事業の拡充強化に務めた。「気象学」など著書多数。昭和二十四年文化勲章受章。三十一年に没。

国際的学者の帰郷

気象学や気象事業に中央で大きな功績を残し、大正十三年（一九二四）には国際気象人に贈られる英国王立気象学会のサイモンズ賞を受けた岡田武松は、昭和十六年（一九四一）に六十八歳で引退し、布佐に帰郷しました。

この帰郷前後から昭和三十一年に永眠するまで、岡田は郷土の発展に貢献しています。その寂たるものは、布佐の気象送信所と対岸の布川気象測器工場の建設です。ちなみに第四回柳田ゆかりサミットの首長会議は、測器工場跡に建つ利根町役場の新庁舎で開かれます。また、柳田の実家、松岡医院の向かいにある自邸内に、岡田版「布佐文庫」というべき、児童文庫を開設、土地の児童に読書の楽しさを教えました。

開発済世の碑

戦後、手賀沼耕地整理完成を記念して、相島新田に「開発済世」碑が建ちますが、その題字は岡田武松のものです。開発功労者の井上二郎は柳田と東京帝大卒業が一緒で、各地の国土開発にも貢献した土木技師でした。撰文は千葉県出身の文学者で開墾農場主であった青柳瑞穂。来の自由化が議論となる今日、手賀沼べりで、柳田が米のルーツとして注目した赤米を「湖北座会」が生産しています。古くて新しい農業問題を、赤米をキーワードに環境保全と結びつける試みは、柳田や岡田たちの精神を顕彰する現代の新鮮でユニークな市民運動といえます。

そして、昭和二十四年のこと、岡田はこの年に文化勲章を受章しています。この時、志賀直哉も同時に受章。このことは我孫子の文化を考える時、大切にしてよいことでしょう。

「布佐文庫」と「英文記念碑」

竹内神社にある英文記念碑と布佐文庫に寄贈された本

柳田國男が地元に協力した仕事、それが「布佐文庫」の設立です。柳田は『銀行論』『会債論』など自分の蔵書を寄贈しています。「布佐文庫」は明治四十一年（一九〇八）の開館で、蔵書数は四千五百冊、県下第三位を誇りました。しかも文庫は官製ではなく、現代風にいえば住民運動でつくられた図書館なのです。日露戦争後、疲弊した地方を改良する秀れた事業のひとつといえるでしょうか。

文庫の初代理事長は松岡鼎で、布佐の町中から本が寄贈や委託されました。当初は勝蓮院にあずけ、やがて布佐小学校に受け継がれ、現在も柳田の寄贈本も含め数百冊が大切に保存されています。

この春には、柳田が大学卒業後友人と学術講演会をしたこともある布佐小学校内で、現存する文庫の蔵書が公開されます。

布佐小学校の隣りの竹内神社の境内には、柳田の名が刻まれ、題字が英文の、日露戦争記念碑があります。明治三十八年一月一日の日付で、日露戦争を記念して境内に桜五百本を植樹したことを刻んだ石碑です。この碑には地元の名望家、榎本次郎右衛門（代議士）、大澤愛太郎（東大教授）、一色正輔（町長）、井上一郎（手賀沼開発者）の名が松岡兄弟と共に記されています。

布佐の人々にとっては、いつも竹内神社で見かけるなんでもない碑でしたが、柳田の日露戦争評価を同い知れるこの碑を、『環有名にしたのは、米国の柳田研究者のR・モースでした。それは柳田を国際的に位置づけてこそ、これを「発見」することができたのです。

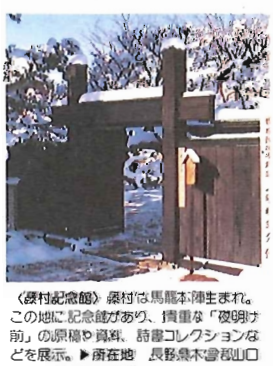
利根川べりに遊ぶ

島崎藤村・田山花袋・国木田独歩

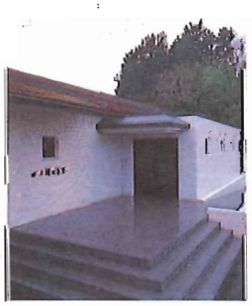
柳田國男はもちろん民俗学者ですが、その前身は高級官僚でさらに、その前の姿は文学青年でした。少年時代から和歌を学び、兄の井上通泰の紹介で森鷗外に文学上の教えを受けた柳田は、将来を期待される詩人だったのです。この頃の文学仲間に、田山花袋、島崎藤村、国木田独歩たちがいます。花袋、藤村、独歩はいずれも大学の俳優中、布佐に滞在している柳田を、何度か遊びに訪れています。

この時の紀行を島崎藤村は「利根川だより」と題し、明治三十一年の「帝国文学」に発表しています。布佐訪問後、数か月もたたずのことで、東京から列車で銚子まで行き、銚子から布佐までは利根川を船で上っています。夕方に布佐に着いた藤村は、柳田の実家の松岡家に「友（國男）」と「くつろぎ」、絵画を好む「友の弟なる人（輝夫）」と「この夜は三人して枕を並べ、われは一人の間にはさまりて、川といふものになりて眠につきぬ」と書き綴っています。

田山花袋は、布佐で利根川の白帆を眺めた一方で、落日に面して、美しく金色に輝いた手賀沼の水光を望むことが出来たと、大正時代に書いた『利根川』に文学青年時代の柳田との一時を懐かしそうに回想しています。最近、花袋宛の柳田の書簡に、青年国男が愛を寄せたと思われるいね子という女性の名が発見され、文学青年時代の柳田像が再び話題となっています。



〈藤村記念館〉藤村は馬籠本陣生まれ。この地に記念館があり、貴重な「夜明け前」の原稿や資料、詩書コレクションなどを展示。▶所在地　長野県木曽郡山口村　☎0264(59)2047



〈田山花袋記念館〉花袋記念館の隣接地に記念館があり、田山家の資料や書斎の復元、「蒲団」、「田舎教師」などの資料を展示。▶所在地　群馬県館林市　☎0276(74)5100

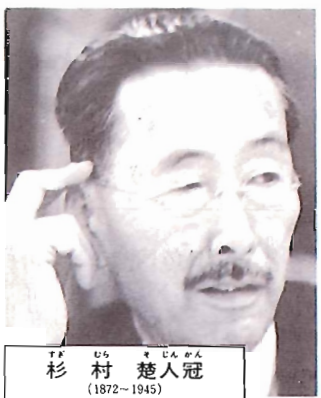
その学問、仕事

ジャーナリスト時代

戦前の著名なジャーナリスト、杉村楚人冠（東京朝日新聞社幹部）が旧我孫子町に居を定めたのは、大正十二年（一九二三）、関東大震災の後でした。杉村楚人冠はこの前年に、日本初のグラフ雑誌、アサヒグラフを創刊しています。官界を去り、同九年に東京朝日新聞客員となった柳田は、十三年からアサヒグラフに執筆をはじめ、『山の人生』などを連載しています。入社後三年間は内外旅行を条件に客員となった柳田は、旅先から紀行文を送り、その代表的なものが『雪国の春』や『海南小記』です。

大正十年から国際連盟委任統治委員としてヨーロッパ生活を経たあと、同十三年からは正式社員となり、社説を精力的に書きはじめます。その社説の数は昭和五年に退社するまでに、四百篇近くにのぼります。旺盛な筆力で書きまくった社説にあらわれる柳田の主張は、『明治大正史世相篇』や『郡市と農村』にも表現されています。

この当時、杉村楚人冠は東京朝日新聞の顧問兼論説委員の肩書きでした。楚人冠と柳田は新聞社の同僚だったのです。この頃の柳田論説委員は、羽織、はかまに白足袋のさっそうとしたスタイルでした。



杉村楚人冠（すぎむら そじんかん）
（1872～1945）

新聞記者。明治五年（一八七二）、和歌山に生まれる。本名は広太郎。明治三十六年、朝日新聞に入社、敏腕健筆をうたわれる。新聞学者、随筆家としても著名。大正時代から旧我孫子町に住み、「湖畔吟社」を結成、地域文化向上にも貢献。「新聞紙学」「楚人冠」「湖畔吟」など著書多数。昭和二十年に没。

かわせみ論争

杉村楚人冠は明治五年（一八七二）生まれで、柳田より三歳年上です。そして楚人冠は和歌山県の出身、柳田が尊敬する和歌山県人といえば、人類学者にして粘菌学者の南方熊楠ですが、柳田にとって楚人冠も忘れられない和歌山出の人でしょう。

楚人冠の批評や随想が風刺や皮肉に富んだものであることは有名ですが、その点では柳田も相当なものです。愛鳥家の杉村楚人冠が、アサヒグラフに連載していた随筆「湖畔吟」に、我孫子の家に来る鳥たちの姿と自分の愛鳥家ぶりを、「かわせみ」と題して発表したところ、早速、柳田は『翡翠の欺き』という風刺のきいたエッセイを書いて、自分も愛鳥家であることを示して対抗。この二人のやりとりが、当時の愛鳥ブームに火をつけることになりました。それは二人で承知の自然愛護、動物愛護の運動でした。毒舌二人は同じ新聞社にいたのですから。しかし、二人のカワセミ論争はやや柳田に分がありました。昭和九年、日本野鳥会の会の座談会に二人が出席した際、再び柳田がカワセミの話を持ち出し、楚人冠が閉口しているのがわかります。

このような大人同士の遊びをしながら柳田は、楚人冠を『正直生粋のジャーナリスト』と尊敬し、その真実をつく名文家へ『無意識の歴史家』の称号を贈っているのです。

地元の『湖畔吟社』の同人たちが中心となって建てた楚人冠の碑（陶芸家・河村靖山作）

リレー小説「旋風」

大正十五年（一九二六）、五十二歳の柳田が小説を書いています。それも連作小説、別名リレー小説のはしり、杉村楚人冠の企画でアサヒグラフに連載された小説「旋風」の中に。「旋風」は文と絵とあわせて四十八人の合作。書き出しと終章はもちろん杉村楚人冠。柳田國男は全二十六章のうち第十二章『富士の頂上にて』を執筆しています。執筆者のなかには、手賀沼を舞台にした小説『伝奇日女荘』を書いた笹山臨風がいたり、それに本特集の座談会に登場した鶴見和子教授の父、鶴見祐輔の名前もみえます。挿絵の方は、張輝後の尾上菊五郎や新国劇の澤田正二郎たちが描いているのです。

楚人冠は、「旋風」の妙味は、小説を書きそうもない人、小説の挿絵など書きそうもない人を集めた点にあると豪々と書いています。かつての文学青年、柳田はどんな気持ちでこのリレー小説を書いたのでしょうか。

白樺派の人々を重ねてみる

志賀・武者小路・柳

柳田の自伝的著作の『故郷七十年』の一節に、志賀直哉が登場します。柳田は、自分の日記の明治三十九年（一九〇六）の項に「志賀直哉といふ人、ビネロの作全部を買ひたりと、如何なる人にや」とあると述べています。この時、志賀は二十三歳で学習院から東大英文科にすすんでいました。柳田は三十一歳で法制局参事官でした。明治一けた生まれの柳田と、一けた生まれの白樺派とは一世代のちがいがあります。ビネロとは英国の劇作家で、柳田は英会話の練習用に読んでいたようです。柳田は志賀のことを、「お金に困らない人」とわざわざ指摘しているのですが、興味深いことです。

ところで、「白樺」創刊号と『遠野物語』が、偶然でしょうが年を同じくして明治四十三年に世に出ていることも、注目してよいことでしょう。

そして白樺派の我孫子時代といえば大正時代の中頃で、志賀直哉は『和解』、『暗夜行路』など代表作を執筆、武者小路実篤は『新しき村』を提唱、柳宗悦は『民藝』思想を形成するなど、生涯における脱皮の時期であったわけですが、この頃、柳田も官界を去って、民俗学樹立に人生を賭ける一大転機でした。

さて、白樺派のなかで文化勲章を受章したのは、志賀直哉と武者小路実篤ですが、柳田はこの実篤と、これも偶然、一緒に文化勲章を受章しています。昭和二十六年のことです。

民藝の柳宗悦は、白樺派のなかで、柳田民俗学にもっとも近い仕事をした人間です。柳が民藝思想を形成する契機は、我孫子時代、大正五年の朝鮮・中国旅行でしたが、柳田も半年後に朝鮮・中国旅行をし、かの孫文と会見しています。これも偶然ですが、歴史の必然もどこかに。

昭和26年文化勲章受章式での國男（手前左から2番目）と實篤（後列左）

愛鳥家と今日

5月に開館する我孫子市鳥の博物館

昭和59年高野山に移転した山階鳥類研究所

我孫子市には東洋一の山階鳥類研究所があり、研究所設立者は故山階芳麿前理事長であったことはよく知られています。

そしてこの五月、愛鳥週間の頃に、研究所と協力連携のもと、我孫子市鳥の博物館が開館します。『野鳥雑記』などの著作がある愛鳥家の柳田は、日本野鳥の会の『野鳥』創刊号（昭九）で、山階理事長と座談しています。また、柳田には『山階侯爵の偉業』と題した山階著『日本の鳥類と其生態』（昭十六）の書評もあります。

そして、山階理事長の父、科学の宮様といわれた山階鳥類研究所の初代所長、山階芳麿王は、明治三十三年（一九〇〇）、筑波山に気象観測所を建てましたが、その際、助言協力したのが柳田の友人の岡田武松でした。柳田と岡田が筑波登山をした明治二十七年から六年後のことです。

ところで、鳥の博物館では開館が近づくにつれ、貴重な鳥の標本が寄託・寄贈されるケースが多くなっています。

昨秋には、特別天然記念物のトキのはく製が杉野浜の方から寄託されました。

そして、つい最近、アフリカのマダガスカル島で二百年前に絶滅したという世界一の巨鳥エピオルニスの巨大な卵が、動物作家から寄贈されました。エピオルニスは身長三メートル、体重五百キロ、別名象鳥といわれるにふさわしい鳥。卵は長径三十五センチ。鶏卵百八十個分。開館の目玉として人気を集めそうです。

実篤公園内にある旧邸

〈武者小路実篤記念館〉実篤公園（屋敷跡）に開館し、実篤の歩んだ道を6つのゾーン（心、道、美、愛、真、和）に分け遺品や美術品を展示。▶所在地　東京都調布市　☎03(3260)0648

利根川図志と柳田國男

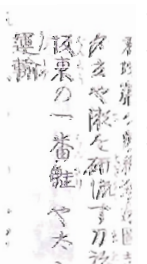
國男少年が西国の故郷を離れ、利根川べりに姿をあらわしたのは明治二十年（一八八七）のこと。それは、布佐の対岸、布川の医師、赤松宗旦が著した民俗誌の名著、地誌の古典『利根川図志』が出版された安政五年から数えて三十年目。少年が「大いなる好奇心を以て最初に読んだ本」はこの『図志』であった。それから半世紀、昭和十三年、民俗学者柳田國男は文庫本で『図志』を紹介し、その存在を世に広めた。それからまた半世紀、柳田國男ゆかりサミット記念に、著者赤松宗旦愛蔵の『図志』が、現代郷土誌の一冊として、新趣向で、近く世に出る。

宗旦愛蔵の「図志」

宗旦愛蔵の『図志』はもちろん初版本。『図志』の初版は安政五年（一八五八）三月にだされています。つづいて再版は万延元年（一八六〇）の発刊ですが、この年は桜田門外の変があり、井伊大老が水戸浪士らに暗殺されています。この世情不安のため、『図志』の出版許可が下りず、宗旦は大きな借財を負うことになった、不運ないきさつがあります。

さて、初版は青色の表紙で、再版は茶表紙でした。そして初版と再版の内容上の違いは、一巻の「自序」の項が草書体から楷書に書き直されているのがひとつ。つぎに利根川湊刈井の図をあらたに挿入。また第三巻の布川大明神と布佐の項の間で記述と挿絵を差しかえ。そして第四巻末尾に短歌俳句を加えているなどです。

ところで、宗旦が愛蔵した初版『図志』には、第一巻のはしがきの冒頭に、『世宗旦義知』の蔵書印が朱色くっきりと押されています。また、直筆で誤字訂正を加え、例えば「蛙」を「鮭」に直したりしています。さらに、たくさんのふりがなを新たに書き加えています。その加筆の跡に宗旦の『図志』への愛着のほどが偲ばれます。



現代の市民が書いた「図志」

『川魚図志』は我孫子市民が書いた、現代の『利根川図志』のサカナ篇といえるもの。著者は新木在住の戸原修二さん。我孫子市史研究センターの会員で、利根町史編さん委員でもある戸原さんは、実は今年の柳田國男ゆかりサミットの利根町側の有力メンバーなのです。

『川魚図志』は昭和五十九年に出版され、その後も版を重ねている人気書。全編が聞き書きで、『川魚あれこれ話』『川魚料理』『船とその こ等方』『さまざまな漁法』『利根川くらし』などが、たくさんの図と写真をまじえて、見て楽しく、理解しやすい内容で紹介。親と子の本です。

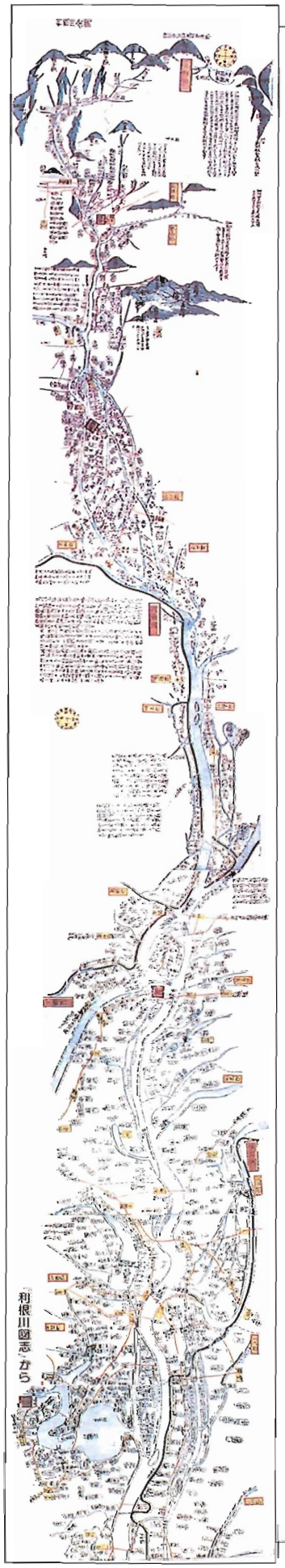
「図志」を受け継ぐ

この赤松宗旦愛蔵の『図志』は、実は市内布佐にある柳田國男の実家、松岡家が現在所蔵しています。

柳田國男の長兄、松岡鼎は同じ医師で先祖の出身も播磨で一緒の、三代目宗旦と友人となり、以来赤松家と松岡家は長く交際をもつようになりました。

そして約三十年前、後嗣者のいない赤松家六代目が、長年の両家のつきあいから、松岡家の蔵書中に『図志』を加えるよう依頼し、松岡家に所蔵されるようになったのです。それは宗旦が『図志』を著してから百年余の出来事でした。

この時、一緒に『利根川図志後


『利根川図志』から

「北越雪譜」と「図志」

『利根川図志』は二存知の通り民俗誌の名著。もう一つの『北越雪譜』もまた民俗学の古典といわれる存在。

『雪譜』は『図志』よりも約二十年早く天保年間に出版され、著者は越後の人、鈴木牧之でした。下総の宗旦が坂東太郎の平地の民俗を述べるなら、牧之は山国の雪深い民俗を語っているのです。

『図志』の著者宗旦は、先輩格の『雪譜』の内容を意識的にとりいれていて、『鮭漁』や『カハボタル』の事項には『雪譜』の影響が明らかといわれます。

『図志』と『雪譜』、この両書をなかよく文庫本の老舗の岩波文庫に収録されています。

そして両書の校訂者が我孫子市布佐ゆかりの人で、竹馬の友、ともいわれる二人でした。『図志』の校訂はもちろん柳田で、『雪譜』のそれは、実は岡田武松なのです。

『利根川図志後藤草稿著』、『下総布川赤松宗旦義知著』と『利根川御用御船印』も松岡家蔵書に納められています。

さて、世の中に一冊しかない赤松宗旦愛蔵の『図志』初版を蔵本に、『あびこ版新編』『利根川図志』が我孫子の市史づくりの一冊として、編集中です。

柳田國男の学問を現代に継承しようと努力してきた我孫子の市史づくりが、我孫子流の市民参加の方法で、多くの人々を執筆者に、宗旦が完成させた『図志』の全項目の現代版を、再び現地を訪ねてリポートしようとしています。

『利根川図志』を現代に復活させる試みは二期待ください。

鈴木牧之記念館（新潟県塩沢町）☎0257(82)9860

編集後記

本特集にご協力いただいた武者小路實篤記念館、田山花袋記念館、鈴木牧之記念館、静村記念館、筑摩書房、新潮社、講談社、三一書房、岩波書店、日本図書センター、海書房、世田谷区、遠野市、飯田市、平良市、利根町、麻生町、福島町、惟喬村の各自治体、我孫子市史研究センターほか多くの方々におれ申し上げます。

ありがとうございました。

健康ガイド

保健センターで

湖北台1の12の16（湖北駅南口徒歩2分）
☎87―1131

テレホンサービス ☎87-1141

しあわせ学級

これから父親、母親になる方へ

子供を生み育てることが、どんなにすばらしいことか、ご夫婦で考えてみませんか。ぜひ、ご夫婦で参加してください。

▼日時　1月20日(土)午前9時30分から11時30分まで（受け付けは当日会場で午前9時15分から）

▼内容　＊16ミリ映写「母と子のきずな」＊赤ちゃんのお風呂の入れ方（実習）＊親になるということ（話）＊その他相談

母親学級

▼時間　午前9時30分から11時30分まで（第3回のみ午後1時から3時まで）

▼持参　母子健康手帳および筆記用具は毎回持参。第1回目はバスタオル1枚。第4回目は、さらし布150cm位、糸、針、はさみ、マチ針を持参してください。

◀母親学級日程

第1回	1月8日(月)	お産とは。妊婦体操
第2回	1月17日(水)	妊娠中の歯科衛生 妊娠中の保健
第3回	1月23日(火)	妊娠中の栄養 妊娠中毒症の予防（医師の話）
第4回	1月29日(月)	産後の保健、手づくりオムツ、赤ちゃんの養護

育児相談

赤ちゃんは生後3、4か月になると表情も豊かになりよく笑うようになります。保健センターでは、この時期の赤ちゃんを中心に赤ちゃん体操を行ってマッサージなど、お母さんの働きかけによって赤ちゃんの成長をすばらしいものにすることができます。ぜひおいでください。

▼相談内容　身体計測、赤ちゃん体操、栄養相談、歯科相談、保健婦の相談など

※乳児健診は母子健康手帳の無料券3～6か月用、9～11か月用を利用し医療機関で受けましょう。

◀育児相談日程

期日	受付	対象
1月9日(火) 1月16日(火) 1月23日(火) 1月30日(火)	●9:15～9:45(該当児) ●9:45～10:30(その他相談のある方)	●平成元年9月生まれ(通知がいきます) ●0～6歳(相談のある方)

1歳6か月児健康診査

1歳半の頃は、自由に1人歩きをし、かたことが話せ、自立心もめばえて世界が広がっていきます。子どもから目が離せない時期で大変な毎日ですが、基本的な生活習慣を身につけさせる大切な時期です。

健診に育てていくために、もう一度母親、父親の役割をみつめなおしてみませんか。

該当月に受けられなかった方もご利用ください。

▼持参　母子健康手帳、問診票（裏面も忘れずに記入して下さい）

◀1歳6か月児健康診査日程

期日	時間	該当児
1月19日(金)	9:15～11:00	昭和63年6月16日から30日生まれ
1月12日(金)		昭和63年6月1日から15日生まれ

肩こり・腰痛教室

肩こりや腰痛で悩んでいる人はいませんか。当日は個別相談もお受けしますのでお気軽にどうぞ。

▼時間　午後1時30分から3時（受付午後1時から1時30分）

▼申し込み　保健センターへ電話または直接おいでください。

◀肩こり・腰痛教室日程

期日	主な内容
1月9日(火)	身近な健康法(話) 体操(深呼吸、体を動かす基本)
1月16日(火)	食事診断 栄養のバランスをとるために
1月23日(火)	正しい歯のみがき方と歯そうのうろうの予防について 肩こり・腰痛予防の体操
1月30日(火)	肩こり・腰痛予防の体操 (体の状態を見ながら体操を行います)

精神衛生相談

いらいらする、眠れない、やる気がおきない。身体的に検査しても異常はないが、どことなくすっきりしない。

保健センターでは、そんな心の悩みを持った方のために精神衛生相談を行っています。心の持ち方やゆえ方ひとつでずいぶん変わるものです。ひとりで悩まないで気軽にご利用ください。

▼申し込み　電話予約。日時をお知らせします。

▼担当　神経内科医横山達郎先生

小児マヒ生ワクチン（ポリオ）投与

▼対象　平成元年6月以前に生まれ、ポリオ投与を2度済ませていない乳幼児（1回目と2回目の間隔は6週間以上あけること）。対象児には通知します。

▼日時　1月23日(火)、25日(木)午後1時15分から2時30分まで

▼持参　母子健康手帳、問診票

※下痢、発熱その他心配なときは主治医に相談の後おいでください。

ツベルクリン反応および判定BCG

▼対象　平成元年9月以前に生まれ、一度もBCG接種を受けていない乳幼児（対象児には通知します）

▼時間　午後1時15分から2時30分まで

▼持参　母子健康手帳

※発熱など心配なときは主治医に相談の後おいでください。

◀ツ反および判定BCG日程

ツベルクリン反応	判定BCG
1月9日(火)	1月11日(木)
1月16日(火)	1月18日(木)

少年センターの少年相談

月曜から金曜まで

少年センターでは子供たちの暴力、いじめ、盗み、シンナー遊びなどの相談に応じています。お気軽にご相談ください。

▶日時　月曜日から金曜日午前10時から午後5時まで

▶場所　教育委員会社会教育課

内少年センター☎(84)1900

〈秘密は固く守ります〉

健康メモ 88

肥満と肝機能障害 -脂肪肝-

脂肪肝とは、中性脂肪が肝臓にたまる病気です。

食物中の脂肪と身体の組織の脂肪は、遊離脂肪酸として肝臓に運ばれ、ここで中性脂肪に変化されます。

また、肝臓からは脂肪とたんぱくが結合したリポタンパクが、血液中に放出されます。肝臓への脂肪の流入と放出は、正常では均衡が保たれています。しかし、肝臓への脂肪の流入の増加、放出の減少が起こると、脂肪肝が起こるわけです。

最も多い原因は、糖質を大量に食べ、たんぱく質を食べないと体内でこれが脂肪に変わり、肝臓へ大量に流入します。さらに、たんぱく質が不足すると、リポタンパクをつくれないので脂肪の放出が減少し、脂肪肝が起こります。

また、アルコールは、肝臓における中性脂肪の生成を促します。大酒を飲み、たんぱく質を食べない治療には、原疾患の治療や糖尿病を取り除くことが第一です。糖尿病に伴う脂肪肝では、糖尿病の治療によって良くなることが多く、肥満に伴うものでは、食事のカロリー制限（減量）によって治癒に向かいます。

アルコールの飲み過ぎによる場合は、アルコール制限、たんぱく質の摂取で良くなりますが、だからといって、高カロリー摂取を行うと逆効果になりますのでご注意を。お酒は正しく飲みましょう。

脂肪肝になると腹部膨満感（おなかが張る）、食欲不振、便秘傾向、疲れやすいなどがしばしばみられますが、多くは自覚症状がありません。

この病気は血液の検査でだいたい分かりますが、正確には肝臓の組織（生検）を顕微鏡で検査します。

▼問い合わせ　我孫子市医師会☎(88)5525

移動図書館車 そよかぜ号1月の日程（荒天中止）

曜日	日	ステーション名	場所	時間(午後)
水	17	中峠	中峠亀田谷公園	1:30～2:10
		湖北	湖北地区公民館	2:20～2:50
		新本野	あらき野ストアー裏	3:10～4:00
木	18	天王台	天王台東児童公園	2:00～2:50
		青山台	柴崎台4号公園	3:10～4:00
金	19	久寺家	久寺家あけぼの公園	2:00～2:45
		つくし野	東急ショッピングセンター裏	3:00～4:00
水	10・24	布佐	布佐青年館	2:00～2:45
		布佐平和台	布佐南近隣センター	3:00～4:00
木	11・25	白山	三洋電機社宅入口	1:40～2:20
		並木	丸石家具駐車場	2:30～3:00
		台田	台田池尻公園	3:20～4:00
金	12・26	根戸中	珍本ぶどう園前	2:00～2:40
		つくし野	東急ショッピングセンター裏	3:00～4:00

すこやかちゃん

跳りの上手なやんちゃ娘

☞佐藤由穂ちゃん（湖北台・1歳）

ぼく電車が大好き

☞森和哉くん（天王台・1歳1か月）

歯みがきして寝るの

☞花島理沙ちゃん（中峠・1歳4か月）

ぼく、将来はサッカー選手

☞岩開貴也くん（布佐西町・1歳9か月）

柏保健所から

☎(67)1255　柏市柏255

3歳児健康診査

▼対象　昭和61年10月生まれ（通知がいきます）

▼日時　1月31日(水)午後1時15分から2時15分

▼場所　我孫子市保健センター

▼持参　母子健康手帳、歯ブラシ、尿

告知板

平成元年12月1日現在（対前年比）
＊人口120,175人（＋2,087人）
男60,367人　女59,808人
＊世帯数38,012世帯（＋1,029世帯）

市役所本庁	85－1111	市民図書館湖北台分館	87－3055
つくし野支所	84－8801	市民図書館布佐分館	89－1311
湖北台支所	88－0828	市民図書館移動図書館	87－0909
湖北支所	88－2111	市民体育館	87－1155
布佐支所	89－2358	都市改造事務所	85－1171
教育委員会	85－1151	身体障害者福祉センター	88－0141
水道局	84－0111	あらきー園	88－4188
消防署	84－0119	つつじ荘	88－0123
少年センター	84－1900	生活環境課（浄化槽）	87－2379
市史編さん室	85－2481	（ゴミ）87－0015（し尿）88－2547	
保健センター	87－1131	布佐南近隣センター	89－3740
市民会館	84－3311	天王台北近隣センター	82－9988
中央公民館	82－0515	湖北台市民センター	88－9927
市民図書館	84－1110	布佐市民センター	89－1193

もよおし

成人式

▶月日　1月15日（祝）
▶会場　市民会館ホール
▶受付　午前10時から10時20分
▶式典　午前10時30分から正午
▶該当者　昭和44年4月2日から45年4月1日までに生まれた方
※該当する方には通知しましたが1月8日までに届かない場合は、社会教育課社会教育係へお問い合わせください。

当日は、市内小中学校卒業時の担任の先生方が出席される予定です。また、参加者には記念品としてアルバムを用意しています。

新春バドミントン大会

▶日時　1月28日（日）午前8時30分受付開始（市民体育館）
▶場所　市民体育館
▶種目　クラブ対抗（男・女・混合ダブルス）
▶参加費　1チーム4000円
▶申し込み・問い合わせ　ハガキにチーム名、チーム責任者名、電話番号、参加選手名を明記し、1月19日（金）までに新木3100－64稲葉谷輝樹☎(87)2549へ

消防出初式

▶日時　1月11日（木）午前9時は市民会館）
▶問い合わせ　消防本部☎(84)0119

市民図書館ミニギャラリー

◎湖北台分館
＝書＝
▶作品　「敦煌」（神原次子作・久寺家）
◎布佐分館
＝墨絵＝
▶作品　「落日」（60号）、「コスモス」（20号）、「熊谷草」（30号）（佐野薫作・天王台）
◎期間　1月6日（土）から30日（火）

忘れあい手賀沼新春講演会

▶日時　1月13日（土）午後1時から（入場無料）
▶場所　市民会館第2、3会議室
▶テーマ　手賀沼浄化について
▶講演　星野七郎氏（前手賀沼土地改良区理事長）
▶問い合わせ　三角☎(83)1046、中丸☎(87)2346

新春市民将棋大会

▶日時　1月3日（水）、15日（祝）、28日（日）いずれも午前10時から
▶場所　金子卓球場（市役所近く）
▶会費　1500円（昼食付）
▶問い合わせ　我孫子将棋同好会金子☎(82)3394

お知らせ

市指定水道・下水道工事店の申請受付

平成2年度市指定水道工事店及び下水道工事店（新規及び継続）の指定申請を受け付けます。
▶申請書交付　1月8日（金）から
▶受付期間　1月16日（火）から2月5日（月）まで
▶指定期間　2年間
▶受付場所・問い合わせ　水道工事店は水道局経営管理課、下水道工事店は下水道課へ

1月10日は110番の日

110番はあわてず正解に

市長、新春に語る

千葉テレビ新春特別番組

大井市長はじめ、松戸市、柏市、流山市、野田市の市長が一堂に会し、年頭にあたっての抱負や政策などを語り合う「東葛5市長、新春に語る」が、あす1月2日に千葉テレビ（UHF46チャンネル）で放映されます。

番組の中で大井市長は、市制施行20周年を迎えての施策などについて述べる予定です。どうぞご覧ください。
▶放映日時　1月2日（月）午後5時から6時

20歳からスタート国民年金に加入しよう

成人を迎えられた皆さん、おめでとうございます。20歳になると成人として多くの権利が認められますが、同時に義務も課せられます。国民年金に加入することもそのひとつです。

今、我が国は世界一の長寿国。長生きできることは素晴らしいことですが、それだけに自分の一生を長い目でみた人生設計が大切です。長い一生の間にはどんなことが待っているかわかりません。

そんな「もしも」の時に欠かせないのが国民年金。国民年金には20歳から60歳になるまでのすべての人が加入します。

20歳になったあなた、国民年金に加入して、大人の仲間入りをしましょう。

まだ、加入していない方は今すぐ、国保年金課年金係で加入手続きをお願いします。

1月の土曜閉庁

第2土曜日の13日
第4土曜日の27日

市役所はお休みします
（一部の施設を除く）
▶問い合わせ　人事課

明るい話題

♡阿部徹様のご遺族から老人福祉のためにと2万円の寄付がありました。

おことわり

今号は正月特集号を企画しましたので、「市民のひろば」はお休みします。＝広報広聴課＝

テレホンサービス
1週間の行事、日曜・休日当番医
（85）1313

1月 市民カレンダー

1	日	・休日当番医＝テレホンサービス ・休日救急歯科診療日＝休日救急歯科診療所（市民会館内9:30～11:30） ・市民図書館休館　・市民体育館休館　・つつじ荘休館
2	火	・休日当番医＝テレホンサービス ・休日救急歯科診療日＝休日救急歯科診療所（市民会館内9:30～11:30） ・市民図書館休館　・市民体育館休館　・つつじ荘休館
3	水	・休日当番医＝テレホンサービス ・休日救急歯科診療日＝休日救急歯科診療所（市民会館内9:30～11:30） ・市民図書館休館　・市民体育館休館　・つつじ荘休館
4	木	・休日救急歯科診療日＝休日救急歯科診療所（市民会館内9:30～11:30） ・市民図書館休館　・市民体育館休館
5	金	・市民図書館休館
6	土	・消費相談＝消費生活センター（9:30～11:30）
7	日	・日曜当番医＝テレホンサービス ・休日救急歯科診療日＝休日救急歯科診療所（市民会館内9:30～11:30）
8	月	・交通事故相談＝市民相談室（10:00～15:00） ・心配ごと相談＝保健センター（9:00～15:00） ・市民図書館休館　・つつじ荘休館　・家庭相談（婦人相談）＝相談室（9～
9	火	・法律相談＝市民相談室（9時から先着10名程度）
10	水	・消費生活相談＝市民相談室（10:00～15:00）
11	木	・登記相談＝市民相談室（10:00～12:00） ・健康相談＝つつじ荘（10:00～11:30）
12	金	・不動産相談＝市民相談室（10:00～15:00）
13	土	
14	日	・日曜当番医＝テレホンサービス ・休日救急歯科診療日＝休日救急歯科診療所（市民会館内9:30～11:30）
15	日	・休日当番医＝テレホンサービス ・休日救急歯科診療日＝休日救急歯科診療所（市民会館内9:30～11:30） ・市民図書館休館　・市民体育館休館　・つつじ荘休館
16	火	・法律相談＝市民相談室（9時から先着10名程度） ・つつじ荘休館　・市民図書館休館

合唱団員募集

いっしょに歌いませんか

☆我孫子合唱連盟加盟団体☆

我孫子合唱連盟加盟団体では団員を募集しています。初心者の方も大歓迎。

合唱団名	練習場所	練習日・時間	連絡先（代表者）
原笛	湖北台市民センター	毎週水曜日　午10：00～12：00	新木 [illegible]
あびこエコーズ	高橋バレエスタジオ	毎週月曜日　午10：00～12：30	高橋 84－8267
あびこ発声合唱団	和田幼稚園	毎週金曜日　午前の部3：00～4：00 午後の部4：00～5：00	東福林 89－3040
我孫子市民合唱団	ふなつ幼稚園 我孫子市教育センター	第1・3土曜日午前9：30～11：30 第2・4土曜日午前9：30～12：30	井田 84－7365
アンサンブル・レオーネ	慈恵学園幼稚園	毎週土曜日　午18：00～10：00	柏野 87－3285
ヴィクセンズ	湖北台8丁目自治会館	毎週木曜日　午10：00～12：00	梶原 87－1320
岡崎本馬	天王台北近隣センター	毎週土曜日　午10：00～12：00	佐藤 84－3220
湖北台女声合唱団	湖北台東小学校	毎週水曜日　午15：00～17：00	増田 [illegible]
コール・てが	中央公民館	第2・4金曜日　午1：00～3：00	青野 88－7143
しおさい	柏市中央公民館	月3回土曜日　午3：00～5：00	西村 84－4868
シャウティング・フォックス	湖北台10丁目自治会館	第1・3・5土曜日　午6：00～8：30 第2・4日曜日	宮本 87－[illegible] 木村 88－[illegible]
少年少女合唱団・コーラズ"鐘"	若葉幼稚園	毎週日曜日　午9：20～10：30	山中 87－0960
女声アンサンブル音	市民会館大会議室 スタジオ・タフト	毎週金曜日　午13：30～12：00 第2・4月曜日　午1：30～3：00（全体）	高見 84－5197
女声合唱団「道」	泉崎神社参集殿	毎週月曜日　午10：00～12：30	井田 88－2789
女声合唱団 La Mare	和田幼稚園	毎週木曜日　午10：00～午12：00	山田 88－3750
女声合唱団「ローレライ」	新木野青年館	毎週水曜日　午10：00～12：00	杉本 87－2600
シルバーエコーズ	湖北学習センター （湖北公民館内）	第2・4月曜日　午10：00～12：00	高橋 88－7351
長寿大学コーラスクラブ	市民会館大会議室	第2・4水曜日　午9：00～11：30	高橋 87－0697
千代田混声合唱団	ふなつ幼稚園 共生ホール	第2・4土曜日　午7：30～9：00 第1・3・5日曜日　午7：00～9：00	角田 88－3112 （午7時以降）
布佐ボビーズ	和田幼稚園	毎週水曜日　午10：00～12：00	金野 88－2117
プリムラ・コーラス	中央公民館	毎週水曜日　午10：00～12：00	根本 83－0652